



### メタバー空間のイメージ

市原市は千葉商科大学、NTT東日本千葉支店と連携し、子育て世帯や高齢者など時間や場所、行動に制約を伴う市民の多様なニーズに応えるため、行政機関におけるメタバーの活用に関する検証を実施する。

千葉商科大学が市原市の資源を活用したメタバー空間の構築。NTT東日本は仮想空間プラットフォーム「DOR」に関する技術的な支援やメタバー活用のあり方を担当する。

### 市原市がNTT東日本千葉支店らと連携

### メタバーを行政機関のタッチポイントに

市原市は市民のメタバーへの関心度や利用実態を把握し、行政窓口サービスなどの充実化を目的とした活用方法について分析する。

市原市は、すべての人がデジタルのメリットを享受できる社会の実現に向けて、デジタルを活用した地域課題の解決や付加価値の創出につなげる取り組みを進めている。

その一環として、メタバーを行政機関への新たなタッチポイントにして、市民の多様なニーズに対応していくことを想定している。

『電経新聞』2024年4月22日付4面